

作家 特集

H.G.ウェルズ 1866-1946

イギリスの下層中流階級に生まれたウェルズは奉公の後、大学で生物学を学びました。卒業後は教師をするかたわら「生物学の教科書（一八九三）」を執筆しています。その後、病氣療養を経て文筆活動に入り、「ネイチャー」誌などに寄稿。一八九五年に最初の小説「タイムマシン」を発表しました。

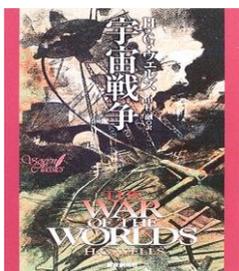
ウェルズのSF作品は一八九〇年代から一九一〇代が中心です。二〇世紀に入ると自伝的要素の強い小説や女性解放を示唆する恋愛小説を発表しました。さらに、社会的政治的思想のメッセージ性の強い、例えば、合成食品による生物の「巨大化」を描いた作品や、第一次世界大戦の前に「原子力兵器の出現」と「核戦争の到来」を書いた作品を手がけました。生涯における文学、科学、社会、歴史、政治など、様々な分野の膨大な著作の中、触れなかったテーマは皆無といえる程です。社会活動家としてのウェルズは、国際連盟の樹立を提唱したり、人権宣言についての書簡をルーズヴェルトや「タイムズ」紙に送り（一九三九）日本国憲法の原案作成に影響を与えたともいわれています。「SFの父」といわれウェルズ。彼の作品に登場する「タイムマシン」や人間を透明にする化学物質、他の惑星からの「地球侵略」、人間の神経中枢エネルギーを飛躍的に増加させ時間を引き延ばす「新加速剤」…全てみな仮説です。彼は大衆の心の超自然的願望に科学的、倫理的、現代的説明をし、新しい小説ジャンルを生み出しました。SF史上最初で最大のアイデア・メーカーであったウェルズの作品は古典となりつつ、今なお、映画や新たなSF作品となって楽しませ続けています。



タイムマシン
The Time Machine
(1895)



時空を超える機械「タイムマシン」を発明した「時の旅行者（タイムトラヴェラー）」は、80万年後の未来世界に飛び、そこで見た人類の変わり果てた姿に衝撃を受ける。今から120年前の作品ですが、色あせず、1966年と2002年に映画化されています。

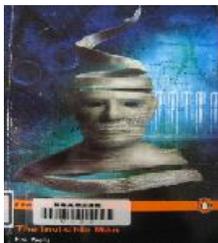
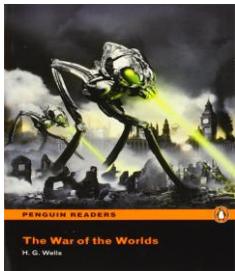


宇宙戦争 The War of the Worlds

20世紀初め火星人が地球に到来。武力で侵略してきた！

後にアメリカでラジオドラマ化され（1938年）あまりの迫真さにパニックが起き、それからフィクションを放送する際には一定の規制をかける法律が制定されたといえます。

大きな頭と退化した四肢をもつタコのような姿の火星人のイメージも世に広まりました。



透明人間 The Invisible Man
(1897)

自らが開発した薬品によって透明人間に変身した科学者。悪意憎しみに満ちた男がその能力を持って暴れ出した時人々は見えない恐怖に怯える—この物語は狂気の科学者と社会との対立を描く傑作として、SF小説の社会的意義にも触れた作品です。



世界史概観 A Short History of the World
(1922)

後半生においてウェルズは世界平和を願い、国家主義を排した普遍的な世界史叙述に取り組みました。第一次大戦を経て、更なる大戦争へ向う前に執筆された本書は地球と生命の誕生に始まる人種の歩みを白人文明中心思想を脱却した大きな視点で物語っています。

